



2015年8月6日 第2201回例会  
8月第1例会

RIテーマ Be a gift to the world

「世界へのプレゼントになろう」

本年度会長テーマ

「ロータリーを通して、互いに親しみ触れ合おう」

## 「会員増強・新クラブ結成推進月間」

### ◆ 会長時間 ◆

金本会長



本日は8月6日。広島へ原爆が投下されて70年目の日を迎えました。被爆70年という節目の今年は、例年になく様々な形で平和について採り上げられ、議論の場が持たれているように思います。

7月16日の当クラブ例会で、中村哲朗グループ7ガバナー補佐より、来年2月28日開催のインターシティ・ミーティングの紹介がありました。田中作次元RI会長にもご出席頂き、被爆地広島のロータリアンとして「奉仕を通じて平和を」についてもう一度考えてみようという趣旨での開催であると私は理解しています。被爆70年、戦後70年のこの年に、平和について今一度深く向き合っていく年度になればと思っています。

今月は当クラブの「平和月間」でもあります。後ほど濱井会員に「原爆被爆70年のヒロシマ」と題して卓話を頂きます。よろしく願いいたします。

次に先ほどご紹介がありましたが、本日はRI第2710地区グループ7、中村哲朗ガバナー補佐と齊藤昭一ガバナー補佐幹事に例会出席頂いております。例会終了後のクラブ協議会に出席頂き、8月27日のガバナー公式訪問時のフォーラムについてご指導頂くことになっています。どうぞよろしくお願いいたします。

さらに本日は、広島修道大学附属鈴峯女子高校インターアクトクラブより顧問教師の山下恵先生、奥真菜さん、加土美菜恵さんの三名にご出席頂い

ております。ようこそお越しくございました。後ほど活動報告を頂き、育成費上期分を贈呈させて頂きます。

今月8月は「会員増強・拡大月間」であります。てっきりそのつもりでいましたが、先日の7月28日付でRI日本事務局から連絡文書が届き、2015年1月のRI理事会に於いて「会員増強・新クラブ結成推進月間」へ変更されていたことが判明しました。RI本部担当部署からの連絡が今日まで不達だったことが、当該月直前の周知となった理由とのことです。

それから最後にもう一つ。7月2日に入会された新会員7名の推薦者の方に、RIよりご褒美として襟ピンと裏当てが届きました。これはRIの「新会員推薦者のための認証プログラム」によるもので、新会員の勧誘に貢献した会員を称えるため、2013年7月1日以降にロータリーに入会した新会員の推薦者に、認証ピンと裏当てが贈呈されるものです。新会員を1人推薦した正会員には、襟ピンのほかにブルーの裏当てが贈呈され、推薦した新会員の数が増えるにつれて、違う色の裏当て（ブロンズ、シルバー、ゴールド）が贈られます。

### ☒ 中村哲朗グループ7ガバナー補佐挨拶

グループ7のガバナー補佐を仰せつかっております中村です。本日は、8月27日に予定されております東ガバナーの公式訪問に先立ち、公式訪問後のクラブフォーラムにおける協議事項を決めさせて頂くために出席しております。例会終了後のクラブ協議会でご意見をまとめたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

**新会員推薦者7名へ襟ピンの贈呈**

ブルー 松岡 幹太郎 君



川西 祐二 君



児玉 裕志 君



小橋 敏幸 君



原 敬 君



荒川 慎吾 君



ブロンズ 岡野 賢太郎 君



**会務報告** 梶本 幹事

※在広RC合本名簿をBOX配布しておりますので、お持ち帰りください。

※合同事務局が8月13日～8月15日の期間、お盆休みとなります。

※次週例会は休会となっておりますので、お間違えのないようお願い致します。

※例会終了後、3階「カトレア」において、中村ガバナー補佐をお迎えして第2回クラブ協議会を開催いたしますので、理事会役員及び各委員長は出席願います。

**委員会報告**

※ プログラム・出席委員会

**出席報告** 片山(常)副委員長

本 日 (8月6日・木曜日)

会員数	81名	出席者	71名
欠席者	10名	ご来客	1名
ご来賓	0名	ゲスト	3名
		計	75名

前々回 (7月23日・木曜日)

出席率 100%



※ 青少年・インターアクト委員会 新本委員長

◎ 青少年交換受入学生のジョーイー君が、予定

通り7月29日(休)母国のアメリカに帰国されました。当日は金本会長をはじめカウンセラーの中村さん、ホストファミリーを引き受けて頂いた原さんご家族、柴田さんご家族、梶さんご家族の皆さん、そして鈴木さんにお見送りをして頂き、有難うございました。なぎさ高校の友人も交えた大勢の見送りに感謝感激の様子で、皆との別れを惜しみながら帰国の途につきました。



なお、本人と保護者の方より日本時間の7月30日には無事帰国したことのお知らせとお礼のメールが届きましたことをご報告申し上げます。

そして、もうお一人、メキシコに派遣されていた青少年交換派遣学生の楠木アシュリさんの動向ですが、去る7月12日に無事帰国されたことをご報告申し上げます。

#### ◎ 広島修道大学附属鈴峯女子高校インターアクトクラブ活動報告及び上期育成費（目録）贈呈



広島修道大学附属鈴峯女子高校インターアクトクラブ

顧問：山下 恵さん

生徒：奥 真菜さん、加土美菜恵さん

こんにちは。本日は、インターアクト育成金をいただき有難うございました。

今日は私たちの広島修道大学附属鈴峯女子高校インターアクトクラブの活動報告と活動を通じて感じたことをお話しさせていただきます。

私たちは顧問教師の山下先生と参与の西村先生を中心に、毎週金曜日の例会で活動計画を立てながら活動しています。

年間を通じて継続的に取り組んでいる活動には次のようなものがあります。

#### 1. 特別養護老人ホーム「千歳園」の訪問

入所されているお年寄りの方々のお話相手になっています。

#### 2. あしなが募金運動や、バングラデシュの教育支援団体であるボンドゥーが主催する募金活動への協力

年2回行われるあしなが募金やボンドゥーの募金では、そごうや福屋前で募金活動に参加しています。

#### 3. 広島市社会福祉協議会の案内するボランティア活動への参加

心身に障がいを持つ子供たちのミニテニスの補助や夏休みを中心に社会福祉協議会が案内する活動に参加しています。

#### 4. 24時間テレビでの募金活動

今年は、8月22・23日に行われる予定です。

#### 5. もみじ福祉会主催のバザーのお手伝い

もみじ福祉会主催のバザーのお手伝いをしながら交流しています。今年は9月20日の予定です。

#### 6. バングラデシュのスズガミネ校維持のための活動

文房具や支援金を募っています。

#### 7. 国際ロータリー第2710地区指導者講習会、地区大会への参加

広島県、山口県のインターアクトとの交流を深めています。

またその他に、8月19日に行われる救急救命講習会への参加など、不定期な活動はその都度例会で話し合いながら計画を立てて参加するようにしています。

私たちがインターアクトクラブの活動を通じて感じていることは、さまざまなボランティア活動を通じて、いろいろな人たちと出会う中で、

これまでの私たちの生活の中では見えなかったことが見え、気づけなかったことに気づきかけになっているということです。視野の広がりを感じます。

これらの活動ができるのは、広島西ロータリークラブのみなさまの変わらぬご支援のおかげです。私たちも参加させていただいた韓国研修や昨年度は宮島散策も企画していただき、ロータリアンのみなさまには特別のご支援をいただき、クラブ員一同感謝しています。私たちインターアクトクラブ員もみなさまのご期待にそえるよう頑張りたいと思います。今後とも、インターアクトクラブへのご支援をよろしく願います。本日は、どうもありがとうございました。

✳️ プログラム・出席委員会 小田委員長  
第2710地区 地区大会のご案内

✳️ 会報雑誌・広報委員会 松田委員長  
ロータリーの友誌より表紙写真の募集がありましたので、興味がある方は事務局までご連絡ください。

## ● 会員記念日

 8月お誕生日おめでとうございます。

(11名)

三浦君	箕 君	鮫島君
沖 君	松岡(輝)君	尾形君
松岡(幹)君	木村君	山木君
加藤君	米山君	



## ● スマイルボックス SAA 吉田副委員長

### 大本君 (自主申告・大枚)

7月25日に長男周作に次女が産まれました。二人目の孫になります。孫の幸せを祈って出宝します。

### 小島君 (自主申告・大枚)

8月1日、長男のところに次女が誕生しました。5人目の孫です。子供4人、孫5人では生産効率が低いので、もっと“生めや、ふやせ”と期待しています。まずは孫の健やかな成長を願って!

### 柴田君 (自主申告・金一封)

7月30日の夜間例会では、会員の皆様のご協力のお蔭を持ちまして、楽しい会話と笑い声の絶えない懇親の時間を過ごす事が出来ました。

誠に有難うございました。

今年は全席、テーブル形式の設営をしましたが、お座敷であるにも関わらず、その設営を快く受けて下さった、うを久の坂田さんにも大変お世話になりました。

この様な中、私、柴田のハチャメチャな進行ぶりは目を覆うばかりで、「正副会長幹事会」を「正副会」と表現したり、垂井大先輩を「垂井のおじいちゃん」と呼ぶなど、失礼・無礼の数々。それらをひっくるめてスマイルとスマンボックスあわせて出宝させていただきます。

なお、当委員会の事業はまだ続きます。会員の皆様には、今後とも宜しく願います。

### 梶 君 (自主申告・金一封)

三菱重工広島硬式野球部は、7月に行なわれた都市対抗野球全国大会でベスト4に進出、準決勝で大阪市代表大阪ガスチームに敗れ、決勝進出はのがしましたが3位として、黄しし旗きい(ライオンのしし)を持ち帰ることができました。

応援いただいた皆様に感謝し、スマイルさせていただきます。

### 加藤君 (自主申告・トリプル)

昨日のホームテレビJステーションで弊社商品「鶴亀もなか」の紹介をしていただきました。若干のインタビューと工場の中を放送していただきました。児玉さんに見つかったので自主申告します。

### 新原君 (自主申告・トリプル)

去る7月30日の夜間例会懇親会のゲームにおいて、我が鶴チームは見事3位入賞を果たしましたが、本来2位までしか権利のない「美女のカベドン」を勝手に登壇し、いただいてしまいました。おかげ様で、とても良い夢が見られました。

### 松田君 (自主申告)

8月28日に「企業法務とは」というテーマで当事務所恒例の勉強会を開催します。詳細は、本日ボックスに配布した資料のとおりです。勉強会の後には懇親会もありますので、ぜひご参加下さい。

### 全員出宝

本日は原爆記念日です。犠牲者の御霊に哀悼の意を表し、全員出宝をお願いいたします。

## 原爆被爆 70 年のヒロシマ

平和都市その理念・哲学と使命  
どう継承する

瀧井 順三 君



<はじめに>

広島は今年被爆70年、今、被爆者も少なくなり平均年齢も80歳を超え、ヒロシマも次第に風化が進み、我々も平素は

意識することもないほど平和な時代を迎えている。

「ヒロシマと平和」の問題については継承していかなければならないものがあるのではないかと。8月6日の今日はこの問題について考えてみることにしたい。

最初に「ヒロシマと平和」の問題については、各論において、考え方、活動内容ともに極めて多岐、多様化しており、この問題の全体像は、一層掴み難いものになっていることが分かった。

そこで、元ガバナー補佐の久永洪氏（北RC）及び、小泉隆司氏（広島RC）両氏のご指導の下、あくまで一般的な目線での問題把握と問題提起をまとめてみたいと考え、多くの新聞記事の中から更に代表的なものに絞ってKJ法手法を使って集約統合化を行った。その結果、われわれが探そうとしていた全体像を構成する数項目がクローズアップされた。即ち、問題把握と同時に問題提起となり得る項目が分かりやすい形で示されるものとなった。

時間がないので早速その項目から説明していく。

■「ヒロシマと平和」大きく分類された項目の表札は

- A ヒロシマは平和都市として建設されてきた（復興・建設）
- B ヒロシマの平和 理念・哲学とは（理念・哲学）
- C 国の平和 と 人類・人間・人々の平和では場合によっては概念が変わってくる（概念の多様化） 例えば 戦争のない平和、原爆のない平和の概念が、場合によっては戦争も原爆も必要と言う、目的が手段に変わる概念も出てくる等々。
- D 依然として世界と乖離（世界と乖離）  
ヒロシマの平和の理念・哲学・使命 とは何

か。その真の意味が伝わっていない。

E 世界へ、そして次の世代へどう伝え継いでいくのか。（継承と使命）

■A～E全てを包括する全体像としてのタイトルの表札は次のようになった。

【広島は国の法律「広島平和記念都市建設法」で恒久平和を象徴する都市として建設する】と謳われている

即ち、「ヒロシマと平和」についてこの全体像を表す「広島平和記念都市建設法」を知れば、今回の目的の輪郭と概要が掴めることになるものと考えた。

「広島平和記念都市建設法」は昭和24年に成立が実現。この大きな特徴と意義は恒久平和を象徴する都市として建設するという、平和の理念を明示した法律になっているところである。

■B「ヒロシマの平和」とは「その理念・哲学」とは その原点は最初の平和宣言に集約されている。その全文は時間の関係上省略するが、主な所を、列挙すると

- ・戦争の惨苦と罪悪とを 最も深く体験し 自覚する者のみが 苦悩の極致として
- ・戦争を根本的に否定し、 最も熱烈に平和を希求するものである
- ・恐るべき兵器は（原爆）原子力をもって争う世界戦争は、 人類の破滅と文明の終末を意味する。これこそ 絶対平和の創造であり、新しい人生と世界の誕生を物語るものでなくてはならない。われわれは大事にあった場合
- ・深い反省と熟慮を加えることによって、
- ・新しい真理と道を発見する、
- ・全身全霊をあげて平和への道を邁進し、もって新しい文明へのさきがけとなることではなければならない。 地上より戦争の恐怖と罪悪とを抹殺して 真実の平和を確立しよう 永遠に戦争を放棄して世界平和の理想を地上に建設しよう

この第一回の平和宣言の特徴は 人間の本音としての心の底からの叫びが、ストレートに純粋に表現されている。政治やイデオロギーで抑制されたり曲がったりすることのない言葉で表現されている。当時はこれだけはっきり言うのも命がけの時代だったようである。

■「ヒロシマの平和」の理念とは、をキーワードの抜粋から説明してみると  
「戦争のない平和、原爆のない平和」

原爆(核兵器)は無差別・大量虐殺・非人道性・人類の敵・絶対悪

=人類の破滅と文明の終末を意味する

二度と地球上で起こしてはならない

このような表現の内容を含んだ概念と考えられ、しかも、それが国家次元を超えて、また 惨苦・恨み・憎しみを超えて 人類・人々・人間の次元(客体)という高次元の理念・哲学になっていることである。

そして、いよいよ、恒久平和を象徴する都市として広島市を建設するという理念が込められた「広島平和記念都市建設法」の制定への動きが始まっていく。然し、この法律の成立の過程では、当時の占領下の状況は、現在ではどうも考えられないような大変な事態の経緯があった。

- ▶ 米国GHQ(軍司令部)、米国の支持は先ず難しい、多くの国会議員も及び腰、国の法律をつくることなど論外、全国各地も被災、財源問題等 全国的に賛同は難しく、広島だけの例外は認められない。国会成立は誰が考えても不可能、然し全市壊滅の広島はその道しかない。
- ▶ その状況の中で広島の人たちが立ち上がり体を張って動いた。
- ▶ 米国GHQが賛同、支持、一気に流れが変わり、国会議員も動き出す、全会一致で国会成立実現。市民投票でも圧倒的な賛成を得て法律が施行されることとなった。
- ▶ 崇高な理念をもったこの法律を成立させたことが最も大きな意義。(NHK「ヒロシマ復興を夢見た男たち」で全国放映)
- ▶ 国の法律「広島平和記念都市建設法」の第一条に明記されている正確な文言は次の通り
- ▶ 「この法律は、恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設することを目的とする。」一言で表現すれば「平和の聖地」として広島市を建設するということであろう。

ここからヒロシマの復興が始まっていく、原爆後、20年の記録は「原爆市長」に記述、参照  
そして歴史は今日、さらに50年が経ち今年被爆70年を迎えている。

概念に関する項目

- C(概念の多様化) 国の平和と人々の平和  
場合によっては概念が変わってくる  
戦争のない平和、原爆のない平和と言う概念が、場合によっては 平和のためには戦争も

原爆も必要と言う、目的から手段に変わる概念も出てくる。

この平和の概念の問題が全体の中で、一番多様化、複雑化を生じる項目であったが、ヒロシマの平和の理念としての概念の最大の特徴は、繰り返しになるが、国を超えた地球上、世界、人類の理念・哲学になっていることである。他の概念と全く違うこの一番肝心なところが一般にほとんど理解されていないように思われる。

今後はヒロシマと平和に関しては特にこの所を強く伝えていかないと、後に出てくる世界との乖離は埋めることは出来ないものと考えられる。

■ロータリーとヒロシマの理念は全く共通  
また、この概念の項で改めて認識できたことは、ヒロシマの理念・哲学は 国、人種、民族、宗教、イデオロギーを超えてのものであり。これはロータリーの理念と全く共通しているものであると考えられる。

■D【世界と依然と乖離】 = 原爆投下各国はどう記述

米国は正当化が基本で大勢 等々

新聞記事⇒power-Point参照

■Eヒロシマは【世界と次の世代とにその理念・哲学を広めていく使命がある都市である】  
理念・哲学にも 風化、無関心、無知化 が生じてきている

(例)の一つとして、平和を象徴する都市建設の分野でも、平和の象徴という基本がハード、ソフトの両面で崩れてきており、次第に普通の都市建設になってきている。原点に立ちかえって考え、再構築していかなければならないことである。伝承の問題以前に、この風化の問題にも目を向ける必要がある。

■伝え継ぎ、広めていく方法・手法 の提言  
【伝え、広めていく方法・手法は 文化・芸術の域に昇華させていくこと】

言うだけ、やるだけ、つくるだけ等々 だけでは 不十分⇒文化・芸術に昇華の創造が重要。

- ▶ 今回の研究の中で小泉隆司氏(広島RC)から、この貴重な提言が織込まれた。  
特に今回の問題については、各問題の全てにおいて、ハード、ソフト両面で、芸術、文化の域に高めていく試みが強く求められる事象であるとの提言である。

■ヒロシマへの関心は高まってきている

■【飯田東中学校が「広島復興に学ぶ」と言うテーマで来広】

今年、飯田東中学校約90名が来広した。私の方に説明の依頼がありR C奉仕の一環で引き受けた。飯田も大火の災害を受けた街、若い人が街の復興に取り組んでいる。

後日、90名全員から「感想文」が送られてきた。

(個々については時間の関係で省略) 次のような内容のものが多くあった、その一部を紹介する。

- ▶ 「百米道路や平和公園、河岸緑地など実際に広島に来て見て、本当にすばらしい大きな街に、立派に復興している。その復興振りに感動し、すごいと思った。
- ▶ 原爆や戦争のない平和の大切さを強く感じさせられた。今の広島があるから昔の原爆の恐ろしさを知ることが出来た。
- ▶ 市民が協力してこんなに立派な街になっていることを飯田でも習いたい。
- ▶ これでも、未だ道半ばという話しが特に心に残った。自分も地域に役立つような人間になりたい。

広島に関心を持つすばらしい子供たちがこんなに多くいることを知り、改めて伝承の大切さを強く感じさせられた。

■被爆70年 ヒロシマは世界に、そして次の世代に伝承の使命がある

風化も次第に進んでいるが、一方、国内、世界でヒロシマに徐々にではあるが目を向ける人が出てきている。発信し続けてきたヒロシマが徐々にではあるが広がっている証であり、継続の必要性を物語るものである。

■今、世界に「国の枠組みを超えた形の活動」が広がっている

広島、長崎が提唱している平和市長会議、世界平和連帯都市市長会議、平和首長会議やI P P N W (核戦争防止国際医師会議) など国を超える枠組みでの活動が広がっている。

世界、人類次元の平和理念を伝え広めていくためには、国の枠組みを超えた活動が必要になってきていることを示唆する事例である。

■ロータリー活動こそ、国を超えた活動の最たるもの、今、ロータリーの時代が到来しているのではないか

<おわりに>

■今回の結論として次の提言を行う

- (1) 恒久平和を願う平和の象徴としての都市・広島のロータリーは、特にこれからの時代、担うべき大きな役割がある
- (2) 世界や次の世代に伝え・広めていくための

文化・芸術の域に昇華させていく分野でもロータリーには大きな役割がある

以上、ガバナー補佐中村哲朗氏が担当するインターシティー・ミーティングでのパネルディスカッションのヒントの一助になれば幸いである。

本日、応援に来訪して頂いた、元ガバナー補佐・久永 洪氏に一言発言をお願いして卓話を終わります。



## 挨拶 久永 洪氏

(元ガバナー補佐、北R C)

濱井君とは大学、J C時代からの友人ですが、1年位前から

被爆70年のヒロシマについて話し合ってきました。このままでは風化してしまうかもしれない、在広ロータリークラブでも被爆者、戦争体験者がクラブで4~5人しか居られない。

原爆後の復興の途上で、先人たちが求めた人類の平和、国家・民族・宗教を超えた人類としての平和、これがヒロシマの希求する平和です。

皆さんご承知のようにR Iの目的の中に究極の目的として「奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて、国際理解・親善・平和を推進すること」とあります。ヒロシマが願う平和と同じ理念です。

この度、来年のI Mで中村ガバナー補佐が「世界平和とロータリー」をテーマに開催される由、基調講演に元R I会長田中作次氏、松井広島市長が決まったと聞いております。

これまでも諏訪昭登ガバナー年度に記念事業として原爆慰霊碑に八言語板を寄贈されたこともあり、今回のテーマは西R Cが担当されるI Mに相応しいことだと思います。

「ロータリーを通じて、ヒロシマの平和、人類の恒久平和の実現に向かって、道遠きといえども、ロータリーの行動が始まる」と確信しています。

I Mの成功を祈念すると共に西R Cの皆様方に敬意を表します。ご健闘をお祈り致します。

### ● 卓話予告

日時	テ　　マ
8/27(木)	ガバナー公式訪問 東 良 輝 国際ロータリー第2710地区ガバナー



例会日・木曜日 12:30~13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会 長 金本 善行  
幹 事 梶本 政明

**広島西RC** **検索**   
事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp  
作 成・会報雑誌・広報委員会